かるちゃ～ナビ

ザ・見遊（みゅ～）じあむ 38

お米ギャラリー梅田（大阪市北区）

JAが設置したお米のミュージアム。正面に大型映像があり、最新のお米・ごはん食情報を提供しています。「食育」「給食」「栄養バランス」「食文化」など多彩な「お米知識」もレシピカードやリーフレットで紹介。食生活やお肌の相談、体脂肪測定も受け付けています。店舗では全国各地のお米はもちろん、お米を素材にした化粧品などバラエティに富んだお米加工品も販売しています。イベントでは、親子ご飯料理教室、おむすびのむすび方教室、子どもたちを対象にした「食育」教室なども実施。お米に関する書籍・雑誌も自由に閲覧できます。

ごはんを学んで食べるミュージアム

ギャラリーに併設されたイート・イン・コーナー「ごはん亭」は、厳選した銘柄米で料理を提供。鮭親子丼、ネギトロ丼、阿蘇の豚焼きご飯、但馬鶏のちきんばこ、黒豚ソースカツ丼など、一汁三菜で栄養バランスを考えたメニューになっています。デザートにはお米ワッフル・ア・ラ・モードも。銘柄米で握ったできたてのおにぎりも、コンビニとほぼ同じ価格で販売しています。セルフながらお茶もあり、座席も比較的空いているので、梅田でおいしく食事ができる「穴場」にもなっています。外国産農産物の問題が続出する昨今、国産のお米を見直す機会に、一度立ち寄ってみてはいかが？

ミュージアムメモ
▶所在地／大阪市北区芝田１丁目４-８北阪急ビル１階▶交通／JR大阪駅、阪急梅田駅下車徒歩５分ヨドバシカメラの北東、道路向い側のビル▶開館時間／９時～19時▶休館日／毎月第３日曜日▶入館は無料▶問い合わせ／☎06-6375-7260

このシネマがえいが

「レッドクリフ」

『三国志』最大の決戦「赤壁の戦い」を描く

西暦２０８年の中国。大陸は魏、呉、蜀の三国が鼎（てい）立していました。魏の曹操は近隣の対抗勢力を一気に滅ぼそうと、80万の大軍を劉備が治める蜀に向かわせます。劉備軍はわずか２万ですが、関羽、張飛という２人の豪傑の活躍で、どうにか全滅をまぬがれて敗走します。蜀が生き残るために、劉備軍の軍師・諸葛孔明が考えたのは、呉の孫権と同盟を結び、曹操の大軍に対抗する作戦でした。そして、呉には知略にたけた周瑜（しゅうゆ）将軍がいました。こうして、曹操対劉備・孫権の連合軍との死闘が繰り広げられていきます。決戦の場は赤壁です。

「レッドクリフ」とは英語でそのまま「赤壁」のこと。中国の壮大な歴史書『三国志』最大の見せ場である「赤壁の戦い」を示しています。今回の映画はその前半部分で、後半部分は２００９年３月に公開される予定。そういえばタイトルの下に小さく「ＰＡＲＴ１」とありました。エンドロールのあと予告編がでてくるのですぐに席をたたないように。

諸葛孔明、劉備玄徳、関羽、張飛、曹操、孫権、周瑜などおなじみのヒーローたち。あまりにも有名な三国志の物語だけに、自分自身の持っている各登場人物のイメージと映画のキャラクターと照らし合わせてみるとおもしろいでしょう。この映画ではとくに、蜀の軍師・諸葛孔明と呉の将軍・周瑜にスポットをあてた内容になっています。圧巻はやはり、ジョン・ウー監督が大量のエキストラを使ったスペクタクル戦闘シーンでしょうか。

摂津 河内 和泉 おおさか三国誌 38

「東洋のハリウッド」帝国キネマ撮影所（東大阪市）

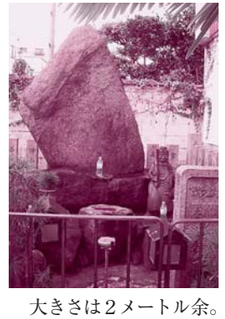
無声映画が華やかだった１９２０年代。数々の名作を生んだ「帝国キネマ撮影所」が東大阪市にあり、「帝キネ」の愛称で親しまれていました。１９２０年５月に創業した帝国キネマ演芸株式会社は当初、近鉄小阪駅北西に撮影所を開設。この撮影所が手狭になり、１９２８年（昭和３年）11月に近鉄長瀬駅近くに移転して、敷地３万３千平方メートルの長瀬撮影所が誕生しました。広さは松竹蒲田を抜き、日活太秦に次ぐ日本映画界第二の規模で、最盛期には６００人が働きました。高さ13メートルの巨大なドーム型撮影所は「東洋のハリウッド」と称され、偉容を誇りました。「小松が白い地面に美しく抜き模様にする。空気はよし。田園的な軽快」（昭和４年刊行雑誌「帝キネ映画」）とうたわれたように、当時の長瀬川は、堤防に美しい松林が続き、ロケーションには絶好の場所でした。「サムライ姿の俳優さんが、馬に乗って土手を走っているのを何度も見た」という地元のお年寄りもいるそうです。あの阪東妻三郎（俳優・田村正和さんの父親）もここで撮影をしました。「帝キネ」は１９３０年（昭和５年）に日本映画ベストテン第１位に輝いたプロレタリアート映画の名作「何が彼女をそうさせたか」をはじめ、「愛の扉」（１９２２年）、「籠の鳥」（１９２３年）、「木村長門守」（１９２８年）など数々の名作を生みました。

映画史に名を残した長瀬撮影所でしたが１９３０年（昭和５年）９月30日未明、失火により全焼。同年11月に京都の太秦に移り、わずか２年余の歴史に幕を閉じました。

高さ13メートルのドーム型撮影所は、偉容を誇りました

現在の跡地には文化財の建物が建ち、散策コースにも

大阪の戦跡を歩く 第37歩


地元では「団結の大石」と呼ぶ

爆弾で吹き飛んだ大石（大阪市鶴見区）

大きさは２メートル余。地元では大峰信仰の講があり、信仰を象徴した石になっています。太平洋戦争末期の空爆で400メートル先の工場まで吹き飛んだといわれ、破壊力のすさまじさに驚かされます。この石は鶴見商店街の東側にあり、毎月５のつく日には、近くに夜店が出ます。現在の位置に搬入する時、まちの大勢の市民が力を合わせて運んだことから、文化祭で地元の郷土史を調査した高校生たちは「団結の大石」とも呼んでいます。

いまも心に響く名詩・名歌・名語録

言うは易く行うは難（かた）し　桓寛

中国・漢の時代（紀元前60年頃）に、当時の官僚であった桓寛（かんかん）が、塩と鉄の専売政策の是非をめぐる儒者と官吏の経済論争をまとめた著書「塩鉄論」に登場する言葉です。立派な計画や考えを披露するのは簡単。しかし本当の課題は計画を実行したときに見えてくるもの。何事もまずは実行、人に宣伝するのは後からでよい。現代にも生きる名言です。

一期一会（いちごいちえ）　山上宗二

それぞれの出会いは一生のうちに一度きり。この有名な言葉のルーツは千利休の弟子・山上宗二（やまのうえそうじ）の著書にあります。「茶会に臨む際には、その機会は一生に一度のものと心得て、主客ともに互いに誠意を尽くせ」という意味。一度しかない出会いで、自分の人生を変える大きなきっかけになった人もいるのではないでしょうか。